

ふるさと運動から生まれたものづくり・人づくり・町づくり

～都市との交流と住民主体の町づくりを目指して～

福島県 ^{みしまち}三島町



生活工芸館前を会場に、毎年6月に全国から約150名の工人らが出展し、多くの工芸品が展示・販売され賑わう。



町の木である「桐」の木は町内に点在し、毎年5月中旬～下旬にかけて薄紫色の花を咲かせる。三島町は、桐産業の振興に力を注いでいる。



毎年3月には、町内の工人らが製作した工芸品が数多く結集し、生活工芸館を会場に生活工芸品展が開催される。

事例の概要

- 全国に先駆けて昭和49年より都市との交流を目的とした「ふるさと運動」をスタートさせた。
- 暮らしの中から生まれた伝統的なものづくりの技と豊かな自然を現代の生活にも生かしていく生活工芸運動が展開され、高齢者を中心に盛んに取り組まれている。今年で第21回目の開催となった「ふるさと会津工人まつり」には、2日間で約1万人の来場者

が訪れている。

- サイの神、鳥追い、虫送り、ひな流し等の昔ながらの伝統行事を各集落が継承しているほか、サイの神をメインイベントとした「雪と火のまつり」、地域の特産品が堪能できる「会津地鶏まつり」等の各種イベントを実施し、都市との交流に継続して取り組んでいる。

評価のポイント

三島町は、良質な会津桐の産地として知られ、昭和49年より全国に先駆けて都市との交流を目的とした「ふるさと運動」をスタートさせ、過疎山村の振興策の流れが生まれた。住民自らが地域づくりに取り組み、それに賛同する首都圏の特別町民と理想のふるさとづくりを行うもので、この運動は特別町民制度やふるさと小包誕生のきっかけとなった。

こうしたまちづくりの取り組みにより、暮らしの中から生まれた伝統的なものづくりの技と豊かな自然を現代の生活にも生かしていく「生活工芸運動」、伝統行事の数々を集落の誇りとして守って連帯意識の高揚を図っていく「地区プライド運動」等を展開している。

国の伝統的工芸品にも指定されたヒロロやマタタビ、山ブドウ細工などの奥会津編み組細工が高齢者を中心に盛んに取り組まれており、今年で第21回目の開催となった「ふるさと会津工人まつり」には、2

日間で、約1万人が訪れた。さらに、全国各地から約150人の工人（ものづくりをはじめとした創作活動をする人）が思い思いの手作りの品を持って三島に集い、出品・展示を行った。さらに、桐の里みしま工人郷として、町全体で約40軒の工人が自宅を工房・ギャラリーとして開放している。

また、地域の特産品である三島産会津地鶏を堪能できる「会津地鶏まつり」（来場者約1,000名）、今年第35回となった「雪と火のまつり」（来場者約1,000名）等、地域特産品や伝統行事を生かしたイベントを実施している。

このように三島町では、先祖から受け継いできた伝統行事や文化、日常生活の中で伝承されてきた取り組みを風化させることなく活動を続けており、今後も安定的な取り組みが期待される。このような点が評価された。

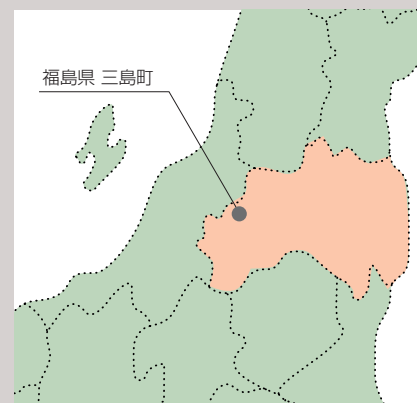


生活工芸館では、ものづくり体験ができるほか、毎年「冬のものづくり教室」が開催され、町内の工人らが集い、技の伝承・工人の育成が行われている。



今年で35回目となった「雪と火のまつり」は、小正月に各地区で行われている「サイの神」や「鳥追い」などの伝統行事を再現したイベントとして開催される。

福島県 三島町（みしまち）



国勢調査人口

（単位：人）

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
5,803	4,108	2,883	2,674	2,474	2,250

人口増減率

（単位：%）

H17/S35	H17/S45	H7/H2	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	若年者比率
△61.2	△45.2	△7.2	△7.5	△9.1	43.2%	9.2%

交通のご案内

自動車 磐越自動車道会津坂下ICから
国道252号経由で20分
鉄 道 JR会津宮下駅下車
飛行機 福島空港から車で100分

団体連絡先

三島町
〒969-7511
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
TEL. 0241-48-5511（代表）
<http://www.town.mishima.fukushima.jp>